

北海道大学大学院経済学院  
修士課程（博士コース，専修コース）入学試験

令和3年度 専門科目 試験問題

試験期日：令和2年8月20日  
試験時間：9時00分～10時30分

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子を開いてはならない。
2. 問題は，

マクロおよびミクロ経済学	2～3 ページ
経営学	4 ページ
会計学	5 ページ

である。
3. 問題冊子の中から出願時に選択した科目について解答しなさい。
4. 受験番号，氏名，選択科目，分野名は，監督員の指示にしたがって解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
5. 解答用紙に解答する際に，問題番号・記号があれば解答の前に必ず記入しなさい。
6. 解答用紙が不足した場合には挙手して監督員に連絡しなさい。
7. 試験場退出は試験開始30分が経過するまで認めない。

## マクロ及びミクロ経済学

問題 I, 問題 II の両方に解答しなさい。

問題 I. 以下のすべての問題に答えなさい。

1. ソローモデルとラムゼーモデルを具体的に対比させながら、ミクロ的基礎付けを持つモデルの重要性について論じなさい。その際、ミクロ的基礎付けがないことで、どのような問題が生じるかについても具体的に言及すること。
2. 金融危機時において、中央銀行が果たすべき機能とその際の行動指針について、銀行のビジネスモデルにもふれながら説明しなさい。

問題 II. 以下のすべての問題に答えなさい。

1. 1期と2期の2期間を生きる個人を考える。この個人の生涯を通した効用が以下で与えられるものとする。

$$U(C_1, C_2) = \log(C_1) + \frac{1}{1+\delta} \log(C_2) \quad (1)$$

ただし、 $C_1$ ,  $C_2$  は、1期目、2期目の消費、 $\delta$  は主観的割引因子を示す。この個人は、信用市場から利率  $r$  で自由にお金を借りたり貸したり（貯蓄したり）できると仮定すると、1期目、2期目における予算制約は以下のように示すことができる。

$$C_1 = (1+r)B_0 + Y_1 - S_1 \quad (2)$$

$$C_2 = Y_2 + (1+r)S_1 \quad (3)$$

ただし、 $Y_1$ ,  $Y_2$  は1期目、2期目の所得、 $B_0$  は初期時点の資産、 $S_1$  は貯蓄、 $r$  は利率を表す。

- (1) (2)式, (3)式から  $S_1$  を消去して、生涯を通した予算制約式を書きなさい。
- (2) この個人の最適な消費計画  $(C_1^*, C_2^*)$  を求めなさい ( $Y_1$ ,  $Y_2$ ,  $B_0$ ,  $r$ ,  $\delta$  は外生変数とせよ)。導出の過程も解答に示すこと。

2. 以下の生産関数を考える.

$$y = L^{\frac{1}{3}}K^{\frac{2}{3}}$$

ただし,  $y$  は生産量,  $L$  は労働,  $K$  は資本の投入量を示す.

- (1) 資本  $K$  が固定されている短期の利潤最大化問題を考える. 生産物の価格を  $p$ , 賃金を  $w$  としたうえで, 最適な労働投入量  $L^*$  と最適な生産量  $y^*$  を求めなさい. 導出の過程も解答に示すこと.
- (2) 労働分配率  $(\frac{wL^*}{py^*})$  を求めなさい. 導出の過程も解答に示すこと.

## 経営学

問題 I, 問題 II の両方に解答しなさい。

問題 I. テイラーの科学的管理法とその限界を述べなさい。

問題 II. 国際経営における「グローバル統合」と「ローカル適応」について説明しなさい。

## 会計学

問題 I, 問題 II の両方に解答しなさい。

問題 I. わが国における保有有価証券の期末評価について、保有有価証券の分類を説明し、その上で分類ごとに適用される評価方法について説明しなさい。

問題 II. 損益計算書において段階的に計算される 5 つの利益について説明しなさい。